



株式会社 悟空テクノロジーズ

東京都港区虎ノ門1丁目12-1 虎ノ門第一法規ビル2F

URL : <https://www.goku-tech.jp/>

代表取締役
野田 達也

ITソリューション事業やシステムエンジニアリング事業を主軸としている『悟空テクノロジーズ』。野田社長は、M&Aに関わった経験を活かし、お客様のITに関する様々な課題に最適なソリューションを提供している。本日は、タレントの布川敏和氏が同社を訪問し、社長にお話を伺った。

——まずは、野田社長の歩みからお聞かせください。

広島県安芸郡出身です。野球に打ち込む学生時代を経て、大学生の時の就職活動で旅行代理店に内定を頂いたのです。それで内定研修をしていたのですが、勤

め人のつまらなさを感じてしまいまして……最終的に内定を辞退しました。当然ながら両親は大変驚きまして、父からは「何をやっているんだ」と叱られたのです。私は、それに反発するように「東京に行く」と啖呵を切り、卒業までの数カ

月で必死に東京で就職活動をしました。その中で、あるコンサルティング会社の人事部長さんとお話する機会があり、「うちに来なよ」と言っていただけで、そちらでお世話になることになったのです。最初の3年ほどは営業担当として働き、その後は営業コンサルティングとして経験を積みました。

——具体的なお仕事内容を伺っても？

M&Aにあたって、間に入る窓口のような仕事をしていました。会社を売りたいというお客様から、どのような会社なのかを伺ったり、色々と打ち合わせをしながらサポートしたり、といった業務になりますね。そういったお仕事を7年ほど手掛けておりました。

——上京のきっかけは反発心だったとのことですが、実際に働かれてみていかがでしたか。

とにかく日々目の前のことを乗り越えるのに必死でした。ただ、一つ言えるのはこれまで出会ってきた方々が本当に良い方ばかりで、人間的に成長させていただけただけが大きいです。独立に踏み切ったのも、人の愛情に対して感謝の思いを抱くと共に、自分に何かできることはないだろうかと考えてのことでした。人との出会いがなければ、『悟空テクノロジーズ』は存在していなかったと思います。

——良縁に恵まれたわけですね。社長の人徳だと思います。独立の経緯を詳しく伺ってもよろしいでしょうか。

関わる方々を少しでも幸せに—— 思いを抱き歩む若き経営者



先にお話しした通り、私は今まで色々な方から愛情やご恩を受けてきたばかりでした。そんな中で、27歳くらいのころに今後の人生や自分自身の存在意義について考えるようになったのです。40代になった時、自分はどんな人間になっているんだろう、と。そして、恩送りと言いますか、人に恩を返していきたいと考えました。それが、自分の幸せなんじゃないか、とも。それで、自分で会社を持ち、従業員の方々に自分が見てもらってきた恩を返していこうと思い、独立に踏み切ったのです。

——お若いのにご立派です。事業内容は、現在もM&A関係のお仕事で？

実は、今年の2月に新しく会社を立ち上げまして、そちらでM&A関係の事業を手掛けております。当社では、ITソリューション事業やシステムエンジニアリング事業が主軸になりますね。前職時代、会社の売買に関わる中で、各社の経営や内情についてを深く見ることも多々ありました。それもあって、会社のオーナーに近い距離でお話する機会もよくあります。そうした中で、会社が抱える課題や悩みを解決するサポートをしたいと考えて、こうした事業内容を据えることとなりました。

——私自身、M&Aが行われる場面を近くで見たことがあります。社長や従業員など、関わる方々の色々な思いが見える場だなと思いました。

おっしゃる通りです。社長としては最

善と思った決断だったとしても、従業員の中には、その社長だったから30年も40年も付いてきたんだという方もいらっしゃる。しかし、社長としては「これで楽になれる」という方もいる。本当に複雑な人間模様というのを間近で見えてきました。全員が100%幸せに、というのは正直に言うと難しいと思います。ただ、私共が入ることによって、1%でも2%でも幸福度が上がるならば何よりのことだと思っていますし、そうすることが我々の役目だと考えています。

——そういった所を見てきたからこそ、社長は「周囲の方々の幸せ」を大切にしておられるのかもしれない。

確かにそうかもしれないです。私自身がそう感じたということもありますが、前職時代の先輩方の存在も大きいですね。人の幸せを一番に考えてくれる方ばかりで、私のことも大切にしてくださっ

ていたので、私もそうなりたいと思いました。

——今の社長のお姿を見て、ご両親も喜んでおられることでしょうか。私自身、社長のようなお若い方に今後頑張ってもらえたら本当に嬉しく思います。

ありがとうございます。私は今30代なのですが、従業員は私よりも若い20代が多く、皆弟や妹のような存在なのです。彼らを抱えるようになってから、より両親の気持ちが分かるようになったような気がします。会社としましては、上場を目標として規模拡大に尽力していく所存です。そして、ゆくゆくは父とお酒を酌み交わしながら、色々な話ができるようになりたいですね。

(2024年5月取材)

column

様々な思いと人間模様が見える仕事

▼対談の中で、ゲストインタビューの布川氏がM&Aについて思いを語る場面があった。自身も関わったことのある会社がM&Aをすることとなり、結果会社の方針が大きく変わったのだという。布川氏は「どっちが悪いとかじゃないんです。トップが変われば方針も変わる。それは至極当然のことです。結果良くなることだったたくさんある。ただ、それまでずっと会社に関わってきた従業員の方々の姿を見ると、すぐに受け入れろというのも難しいのかなと思って」とその時の心情を口にした。

▼野田社長はそれを聞いて「本当にその通りです」と大きく頷く。「長年悩みに悩んだ末、最終的にM&Aという選択をされたという社長もいらっしゃいます。ただ、従業員の方にもそれぞれ思いがありますよね。そうした人としての部分も含めて、少しでもより良い形に持っていくサポートをするのが私共の仕事なのです」と社長。社長が手掛ける仕事の奥深さの一端を見ることができた場面だった。

after the interview

「30歳とお若いながらも、ご自身の意思を持ち、しっかりと歩んでおられる野田社長。若い方が頑張っている姿を見ると、息子や孫を見ているような気持ちになって、心強く思うと共に応援したくなりますね。社長であれば、今後ますます成長していけると思いますよ！」



布川 敏和
(タレント)